

2030年度の企業価値最大化に向けてスタート 直近3年で抜本的な収益改善と 経営基盤強化を遂行



代表取締役 会長
櫻尾 和宏



代表取締役 社長 CEO 兼 CHRO
増田 裕一

時代に適応した「創造 貢献」へ

当社の経営理念「創造 貢献」は、「独自の強みを最大限に活かし、時代の変化に合わせて常に新しい文化を創造することで世の中の役に立ち続ける」という意味です。これまで、パーソナル電卓「カシオミニ」は、生活の中で計算を身近にし、耐衝撃ウォッチ“G-SHOCK”は、腕時計の既成概念を覆して「壊れない時計」を実現しました。

デジタル技術が進化し、機能や性能だけでは優位性を論じられなくなった今、「創造的な活動を通じてお客様の期待と感動を生み、世界の人々の心と暮らしを豊かにする」ことが特に大切だと考えております。時代に適応しながら強みを最大限に活かし、当社にしかできない「創造 貢献」により、世界中の一人ひとりを幸せにしていきたいと思います。

2022年度通期業績のご報告

2022年度通期は、コロナ影響の継続、中国における景気減速、長期化する原材料費・物流費の高騰などの外部環境要因による影響を受けました。厳しい状況の中、“G-SHOCK”高価格帯モデルの好調、対面授業再開に伴う関数電卓のペントアップ需要、および“Privia”最上級ラインの好調継続など一定の成果は得られ、前期と比べて増収減益となりました。

2030年に向けて新経営体制に移行し、 経営基盤を強化

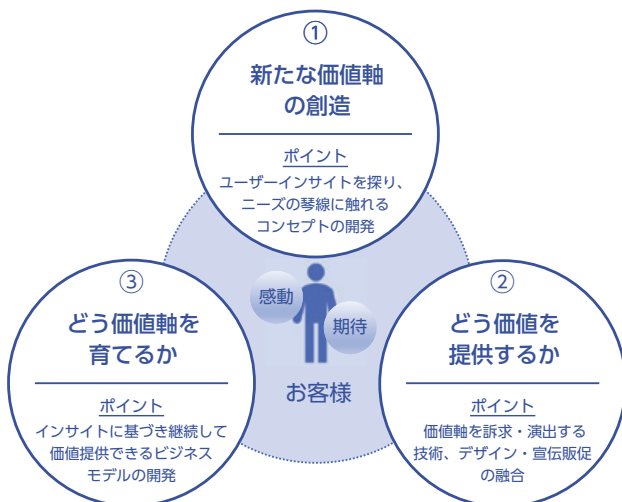
コロナ前の収益力を回復させ、安定したビジネスを展開するため、改めて、2030年度の企業価値最大化をターゲットに、

「市場に新たな価値軸を創り出し、唯一無二のブランドに育て上げる」という経営方針を定めました。

新方針の下、ユーザーニーズを起点とした「新たな価値軸の創造」「どう価値を提供するか」「どう価値軸を育てるか」という3つのステップで、各事業のコアブランドを育成し、各種環境整備、すなわちデジタルマーケティング、デジタルエンジニアリング、そして、それを活用できる人財の活性化を中心に経営基盤を再構築してまいります。また、事業活動を通して社会・環境の課題解決を行うサステナビリティ経営にも注力してまいります。

これらを強力に推進するため、榎尾が会長として経営の監督を、増田が社長として執行を分担する新経営体制に移行いたしました。

■ 中長期経営方針コア戦略



3ヶ年中期経営計画をスタート

2030年度のあるべき姿からバックキャストして、今年を初年度とする3ヶ年中期経営計画を策定しました。この3年間で「収益基盤強化期」と「変革・イノベーション創造期」と位置づけ、収益力の回復と新たな成長領域への投資を行います。

時計事業は“G-SHOCK”プレミアムラインを、EdTech（教育）事業はICT学習アプリ“ClassPad.net”を、サウンド（楽器）事業は電子ピアノ“Privia”をコアテーマとして、それぞれ新しい価値軸を市場に提案してまいります。また、システム事業と新規事業においては、得意領域に注力して新たな価値軸を創造します。このように、各事業においてお客様の期待を超える唯一無二のブランドへと確立させてまいります。

今期は厳しい業績見通しを出しておりますが、新時代に即した強い事業構造へと必ず変革させるための先行投資によるものであることを、強調させていただきます。

なお、株主の皆さまへの配当額は、業績連動および安定配当を基本としており、前年度通期と同額の45円といたしました。今後とも、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。